

## ドイツ語の名詞の格変化の分類について

兒 玉 彦 一 郎

柔道整復学科

## On the Declension of German Nouns

Hikoichiro KODAMA

### 要 旨

本稿は、ドイツ語の名詞の格変化を二つのグループに分類したものである。

キーワード：格変化

### Abstract

In this paper German nouns are classified into two groups.

Keywords : declension.

## ドイツ語の名詞の格変化の分類について On the Declension of German Nouns

### 初めに

男性名詞、中性名詞、女性名詞、複数名詞の格変化の形を二つのグループに分けてみるというのが本稿の目的である。

二つのグループとは、男性名詞と中性名詞で一グループ、女性名詞と複数名詞で一グループとするものである。

### ドイツ語でよく用いられる文字

ドイツ語のアルファベットの中で一番単語の中で用いられるのは e, n, i, r, s, t, a, d, h, l の順<sup>1)</sup>である。上位五文字は e, n, i, r, s である。

### i について

定冠詞では、女性・複数形 1・4 格 die に i は用いられている。

i は、人称代名詞では ich, wir, ihr, sie, Sie に用いられ、この人称代名詞の格変化でもよく現れる。

### 複数形の傾向

定冠詞 der の格変化で用いられている語末のアルファベットは r, e, s, m, n の五文字である。

そして複数形を表す方法も五つ。ドイツ語の複数形は大別して五つのやり方があり、ゼロ型、e 型、er 型、en 型、s 型であるとする、定冠詞の格変化で用いられている r, e, s, m, n の五文字と重なる。ただし m はない。

ここで、ゼロ型に属する単語の最後が -el, -en, -er で終わる男性名詞・中性名詞があるが、これを e 型の変形とみなす。つまり、-el, -en, -er に -e を付加したいのだが、それが弱音の関係で出来ないと考えるわけである。これは名詞だけでなく、動詞、形容詞でも音の関係で生じている。

動詞の場合は、例えば sammeln の人称変化を思い浮かべればよいであろう: ich sammle, wir sammeln。

形容詞の場合は、例えば teuer の比較級の teurer。名詞を修飾する場合の das teure Kleid など。

更に、er 型に属する男性名詞: Geist, Gott, Leib, Mann, Mund, Rand, Ski [Schi], Strauch, Wald, Wurm と、ここに属する -tum で終わる名詞 der Irrtum, der Reichtum を加えて 14 の名詞は男性名詞であるが、er 型に属する女性名詞はないので、上の男性名詞 14 語以外は、er 型に属する名詞は中性名詞ということになる。

なお、参考までに er 型の中性名詞(60)を挙げてみる: Aas(Äser), Amt, Bad, Band, Biest, Bild, Blatt, Brett, Buch, Dach, (Denk)mal, (Ding), Dorf, Ei, Fach, Fass, Feld, (Gehalt), Geld, (Gemach), Gemüt, Geschlecht, Gesicht, Gespenst, Gewand, Glas, Glied, Grab, Gras, Gut, Haupt, Haus, Holz, Horn, Huhn, Kalb, Kind, Kleid, Korn, Kraut, Lamm, Land, Licht, Lid, Lied, Loch, Mahl, Maul, Nest, Pfand, Rad, Rind, (Schild), Schloss, Schwert, Tal, Tuch, Volk, Weib, Wort。ただし、Weib はネガティブな意味があり、現在ではあまり用いられない。

ここに属する -tum で終わる名詞は中性で、例外は、さきほどの男性名詞: der Irrtum, der Reichtum の 2 語である。

傾向として、男性・中性名詞は主に e 型。女性には主に en 型。そして外来語は s 型である、といえよう。それに数はすくないが、er 型は主に中性名詞ということになる。

### 格変化に用いられる文字

複数形の名詞の第 1 格の最後の文字は、ゼロ型で -el, -en, -er であるので、結果として語末のアルファベットは l, n, r, s, e の五文字ということになる。複数 3 格では、n と s だけになってしまう。

なお、アルファベットの中で文字の名前の最初が「エ ε」で始まるのは、f, l, m, n, r, s の六文字であるが、f を除いて、名詞の格変化形に現れている。

### 人称変化に用いられる文字

更に、動詞の人称変化語尾で用いられているアルファベットは e, n, s, t の四文字で、定冠詞の格変化で用いられている語末のアルファベットと共通しているのは e, n, s の三文字である。

e は弱母音で、n は名詞の「弱変化」で活躍する。また男性・中世単数名詞の 2 格で Vaters のように s は「強変化」として用いられる。この三文字 e, n, s はドイツ語の語形変化で愛用されていると考えられる。

### 類似性

#### 1) 語末の類似性

複数形をつくる場合、男性・中性名詞は主に e 型、女性には主に en 型、であると考えてみよう。

また、よく知られているように -e で終わる単数形の名詞は、女性名詞が多い、と言える。

つまり、der Tag の複数形 Tage と女性名詞単数形

Tante の最後の文字が同じ e となる。

## 2) 接尾辞付加の類似性

Arzt の複数形 1 格形は Ärzte であり、Arzt の女性形は Ärztin である。どちらも男性 1 格形に接尾辞を付加してつくる。

「付加する」という意味でも、女性形と複数形は同じと考える。

## 3) 定冠詞の格変化の類似性

男性名詞と中性名詞の定冠詞の格変化は、第 2 格形 des と第 3 格形 dem で同一である。また、女性名詞と複数名詞では、第 1 格形 die、第 2 格形 der、第 4 格形 die、で同一である。

## 二つのグループに分ける

### 1) 男性名詞と中性名詞のグループの例

1 格	der Student	das Brot
2 格	des Studenten	des Brotes
3 格	dem Studenten	dem Brot
4 格	den Studenten	das Brot

一般に、中性名詞は、総称として、または「子供」のように性別に関して中立的なもの、男性・女性と区別がつかないもの、などに用いられている。

また、指示代名詞 das、人称代名詞 es は、性・数に関係なく用いられる用法がある。

定冠詞の男性と中性の格変化では、第一格形が der と das で異なっている。

また、中性名詞の格変化では、インド・ヨーロッパ諸語において 1 格と 4 格は同形となる。

### 2) 女性名詞と複数名詞のグループの例

1 格	die Ärztin	die Ärzte
2 格	der Ärztin	der Ärzte
3 格	der Ärztin	den Ärzten
4 格	die Ärztin	die Ärzte

女性名詞と複数名詞では、3 格以外で定冠詞の格変化は同形で、名詞が単数形か複数形の違いがある。

## den の使い方の違い

男性名詞と中性名詞を「第一グループ」、女性名詞と複数名詞を「第二グループ」と名付けてみる。

第一グループでは第 4 格に den が現れ、第二グループには第 3 格に den が現れる。

## 終わりに

第一グループでは、第 1 格の冠詞の違いが、男性名詞と中性名詞を分けている。

第二グループでは、名詞(の複数形)の変化が、女性名詞と複数名詞を分けている。

第一グループと第二グループでは、den が第 4 格に現れるか第 3 格に現れるかによって、区別される。

den に関しては、第一グループの男性弱変化名詞の場合、den Studenten のように名詞も -en で終わる。第二グループも、den Ärzten のように複数名詞も -(e)n で終わる。

## 注

1) Duden の Die deutsche Rechtschreibung 160 頁。

## 文 献

Duden, *Die deutsche Rechtschreibung*, Mannheim : Bibliographisches Institut AG, 2009

児玉彦一郎「ドイツ語の複数形について」慶應義塾大学『藝文研究第 57 号』1990 年

児玉彦一郎「ドイツ語における語末と性の関係について」筑波大学外国語センター『外国語教育論集 13 号』1991 年 3 月

児玉彦一郎「ドイツ語の『混合変化名詞』をめぐって」早稲田大学『ILT NEWS 92 号』1992 年 10 月

児玉彦一郎「ドイツ語のゼロ型の複数形の傾向について」筑波大学外国語センター『外国語教育論集 15 号』1993 年 3 月

児玉彦一郎「ドイツ語の男性弱変化名詞について」常葉学園浜松大学『国際経済論集』1994 年 10 月